

# 全国健康保険協会加入者の生活習慣の特徴

—業態に注目して—

ヤマザキ イ ツ コ フナカワ ユ カ ロクロ ケイコ  
山崎 衣津子\*1 船川 由香\*3 六路 恵子\*2

**目的** 全国健康保険協会（以下、協会けんぽ）は加入者数全国約3700万人、185万を超える事業所が加入する、わが国最大の医療保険者である。加えて、全都道府県に支部があり、すべての業態において加入事業所が存在していることから、全国規模で業態別に分析することが可能な数少ない組織である。業態別に効果的な保健事業を展開するための基礎資料とすることを目的に、業態別生活習慣について分析を行った。

**方法** 平成24年度に協会けんぽが実施する生活習慣病予防健診を受診し、特定保健指導の積極的支援に該当した被保険者のうち、協会けんぽに所属する保健師・管理栄養士による初回面談を受けた約12万人について、面談で得られた生活習慣を分析した。分析方法は、生活習慣17項目について、それぞれ該当する割合の高い業態順に並べ、腹囲がメタボリックシンドロームの基準以上（男性 $\geq 85\text{cm}$ 、女性 $\geq 90\text{cm}$ ）である者の割合が高い5業態（鉱業・採石業・砂利採取業、総合工事業、情報通信業、道路貨物運送業、その他の運輸業）に着目して分布を調べた。

**結果** 道路貨物運送業、その他の運輸業は、生活習慣全般が好ましくない者の割合が高かった。総合工事業は、喫煙している者のうち禁煙の意志のある者の割合が比較的高く、休養についてストレスを感じない者、起床時の疲労感がない者の割合が高かったが、ほぼ毎日飲酒している者の割合も高かった。情報通信業は、味付けが薄い、普通の者の割合および通勤時間片道20分以上（徒歩、自転車）の割合が比較的高かった。また、ストレスを感じる者の割合は高いが、解消法を持っている者の割合も高かった。鉱業・採石業・砂利採取業は、適量の食事である者の割合が高いが、味付けが薄い、普通の者の割合、カルシウムを摂取している者の割合が低く、ほぼ毎日飲酒している者の割合が高かった。

**結論** 着目した5業態は、腹囲がメタボリックシンドロームの基準以上である者の割合が高いという共通点はあるが、業態によって生活習慣に違いがみられた。画一的な保健指導や保健事業ではなく、業態ごとの生活習慣、健康状態の特徴を踏まえた戦略的な保健事業の展開を考える必要がある。

**キーワード** 全国健康保険協会、協会けんぽ、被保険者、業態、生活習慣、保健事業

## I はじめに

全国健康保険協会（以下、協会けんぽ）は加入者数全国約3700万人、185万を超える事業所が加入する、わが国最大の医療保険者である。

加えて、全都道府県に支部があり、すべての業態において加入事業所が存在していることから、全国規模で業態別に分析することが可能な数少ない組織である。わが国では特定の職業や地域を限定した健康障害や生活習慣についての報告

\* 1 全国健康保険協会本部保健部保健第二グループ主任 \* 2 同保健専門役兼保健第二グループ長

\* 3 全国健康保険協会鹿児島支部保健グループ長

表1 生活習慣項目

<b>栄養・食生活</b> 朝食を毎日とる 1日3回、主食・主菜・副菜揃った食事をとる 1日に主食・主菜・副菜揃った食事をとらない（逆転） 1日3回、主食・主菜・副菜の揃った適量の食事をとる 1日に主食・主菜・副菜の揃った適量の食事をとらない（逆転） カルシウムを毎日摂取している 味付けが薄い、普通 摂取エネルギー量を適正に保つ（BMIが25未満）
<b>運動</b> 20分間以上の運動を週1回行う 20分間以上の運動を週3回以上行う 通勤時片道20分以上（徒歩・自転車）
<b>休養</b> 起床時の疲労感がない ストレスを感じない ストレスを感じるが解消法を持っている
<b>アルコール</b> 飲酒は週5日以下（禁酒者、飲まない者含む）
<b>タバコ</b> 喫煙しない（禁煙者含む） 喫煙している者で禁煙の意思がある

はあるが<sup>11-10)</sup>、すべての業態を全国的に比較した報告はほとんどみられない。

協会けんぽ被保険者の特定健康診査結果の業態別分析では、メタボリックシンドロームのリスク因子の分布が業態によって異なっていた<sup>11)</sup>が、生活習慣についても業態による違いがあるのではないかと考え、業態別に効果的な保健事業を展開するための基礎資料とすることを目的に、業態別生活習慣について分析を行った。

## II 方法

平成24年度に協会けんぽが実施する生活習慣病予防健診を受診し、特定保健指導の積極的支援に該当した被保険者のうち、協会けんぽに所属する保健師・管理栄養士による初回面談を受けた119,389人について、面談で得られた生活習慣を業態別に分析した。業態分類には、協会けんぽが日本年金機構から受領する加入事業所情報における業態（法人、個人を区別しない42業態<sup>12)</sup>を用いた。

分析方法は、生活習慣17項目（表1）について、それぞれ該当する割合の高い業態順に並べ、腹囲がメタボリックシンドロームの基準以上（男性 $\geq 85\text{cm}$ 、女性 $\geq 90\text{cm}$ ）である者の割合が高い5業態（鉱業・採石業・砂利採取業、総合工事業、情報通信業、道路貨物運送業、その他

表2 腹囲がメタボリックシンドロームの基準以上である割合が高い5業態

業態分類	解説	事業例
鉱業・採石業・砂利採取業	鉱物を採掘、採石する事業所およびこれらの選鉱その他の品位向上処理を行う事業所	金属鉱業 採石業 砂・砂利・玉石採取業等
総合工事業	主として土木施設・建築物を完成することを発注者に対し直接請負う事業所または自己建設で行う事業所	土木建築 土木工事 舗装工事等
情報通信業	情報伝達を行う事業所、情報の処理、提供などのサービスを行う事業所、インターネットに付随したサービスを提供する事業所および伝達することを目的として情報の加工を行う事業所	ソフトウェア業 放送業 出版業等
道路貨物運送業	主として自動車等により貨物の運送を行う事業所	一般貨物 自動車運送業 集配利用 運輸業等
その他の運輸業	鉄道業、道路旅客運送業、水運業、航空運輸業、倉庫業、運輸に付帯するサービス業、郵便業	鉄道業 道路旅客運送業 航空運輸業 水運業等

注 メタボリックシンドロームの基準は、男性 $\geq 85\text{cm}$ 、女性 $\geq 90\text{cm}$ である。

の運輸業）（表2）に着目して分布を調べた。

## III 結果

腹囲がメタボリックシンドロームの基準以上である者の割合が高い5業態は、業態によって生活習慣に違いがみられた。表3では上に位置するほど全業態の中で生活習慣が好ましい者の割合が高く、下に位置するほど好ましくない割合が高いとし、表4に5業態の主な順位を示した。

道路貨物運送業は、全42業態の中で生活習慣が下位10位以下に位置している項目数が最も多く、その他の運輸業とともに生活習慣全般が下位に位置している割合が高い業態だった。

総合工事業は、「喫煙している者のうち、禁煙の意志のある者の割合」が全業態中5番目に高く、「飲酒が週5日以下である者の割合」が4番目に低かった。また、「ストレスを感じない者の割合」「起床時の疲労感がない者」も、それぞれ7番目、8番目に高かった。

情報通信業は、「味付けが薄い、普通の者の割合」は4番目に高いが、「朝食を毎日とる者の割合」が下位から9番目と低かった。また、「通勤時片道20分以上（徒歩、自転車）の者の割合」が3番目に高かった。休養について「ス

トレスを感じない者の割合」は下位から5番目であるが、「ストレスを感じるが解消法を持っている者の割合」が2番目に高かった。

鉱業・採石業・砂利採取業は、「1日に主食・主菜・副菜の揃った適量の食事をとらない

表3 業態別生活習慣

順位	栄養・食生活							運動				
	朝食を毎日とる者	1日3回、主食・主菜・副菜の揃った食事をとる	1日に主食・主菜・副菜の揃った食事をとらない(逆転)	1日3回、主食・主菜・副菜の揃った食事をとる	1日に主食・主菜・副菜の揃った適量の食事をとらない(逆転)	カルシウムを毎日摂取している者	味付けが薄い、普通の者	摂取エネルギー量を適正に保つ者(BMIが25未満)	20分間以上の運動を週1回行う者①	20分以上の運動を週3回以上行う者②	通勤時片道20分以上の者(徒歩・自転車)※①、②の対象者を除く	起床時の疲労感がない者
1	公務	公務	学術研究機関	複合サービス業	鉱業・採石業・砂利採取業	公務	無店舗小売業	金融・保険業	無店舗小売業	学術研究機関	無店舗小売業	公務
2	政治・経済・文化団体	社会保険・社会福祉・介護事業	複合サービス業	農林水産業	紙製品製造業	政治・経済・文化団体	学術研究機関	無店舗小売業	電気・ガス・熱供給・水道業	政治・経済・文化団体	その他のサービス業	政治・経済・文化団体
3	繊維製品製造業	農林水産業	木製品・家具等製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	その他の運輸業	その他のサービス業	専門・技術サービス業	木製品・家具等製造業	学術研究機関	公務	情報通信業	学術研究機関
4	学術研究機関	学術研究機関	紙製品製造業	食料品・たばこ製造業	複合サービス業	専門・技術サービス業	情報通信業	繊維製品製造業	専門・技術サービス業	金融・保険業	その他の対事業所サービス業	その他のサービス業
5	専門・技術サービス業	複合サービス業	農林水産業	金融・保険業	教育・学習支援業	社会保険・社会福祉・介護事業	公務	政治・経済・文化団体	金融・保険業	不動産業	政治・経済・文化団体	無店舗小売業
6	電気・ガス・熱供給・水道業	政治・経済・文化団体	電気・ガス・熱供給・水道業	鉱業・採石業・砂利採取業	農林水産業	金融・保険業	政治・経済・文化団体	公務	情報通信業	教育・学習支援業	印刷・同関連業	繊維製品製造業
7	金融・保険業	医療業・保健衛生	社会保険・社会福祉・介護事業	木製品・家具等製造業	宿泊業	職業紹介・労働者派遣業	物品賃貸業	修理業	不動産業	電気・ガス・熱供給・水道業	専門・技術サービス業	不動産業
8	その他のサービス業	電気・ガス・熱供給・水道業	鉱業・採石業・砂利採取業	社会保険・社会福祉・介護事業	修理業	教育・学習支援業	繊維製品製造業	専門・技術サービス業	印刷・同関連業	物品賃貸業	医療業・保健衛生	総合工事業
9	医療業・保健衛生	繊維製品製造業	教育・学習支援業	その他のサービス業	その他の製造業	医療業・保健衛生	社会保険・社会福祉・介護事業	化学工業・同類似業	卸売業	社会保険・社会福祉・介護事業	不動産業	金融・保険業
10	無店舗小売業	修理業	政治・経済・文化団体	印刷・同関連業	金属工業	学術研究機関	その他のサービス業	金属工業	政治・経済・文化団体	化学工業・同類似業	職業紹介・労働者派遣業	職別工事業

33	食料品・たばこ製造業	飲食料品小売業	不動産業	卸売業	繊維製品製造業	物品賃貸業	職業紹介・労働者派遣業	その他の運輸業	繊維製品製造業	金属工業	娯楽業	情報通信業
34	情報通信業	卸売業	対個人サービス業	不動産業	対個人サービス業	紙製品製造業	宿泊業	農林水産業	修理業	無店舗小売業	飲食料品以外の小売業	社会保険・社会福祉・介護事業
35	廃棄物処理業	娯楽業	娯楽業	娯楽業	職別工事業	金属工業	飲食店	飲食料品小売業	教育・学習支援業	木製品・家具等製造業	総合工事業	機械器具製造業
36	紙製品製造業	無店舗小売業	無店舗小売業	繊維製品製造業	情報通信業	宿泊業	農林水産業	娯楽業	鉱業・採石業・砂利採取業	鉱業・採石業・砂利採取業	紙製品製造業	金属工業
37	娯楽業	その他の運輸業	その他の対事業所サービス業	宿泊業	物品賃貸業	飲食店	複合サービス業	職業紹介・労働者派遣業	その他の運輸業	紙製品製造業	修理業	飲食店
38	飲食料品小売業	職業紹介・労働者派遣業	その他の運輸業	医療業・保健衛生	不動産業	木製品・家具等製造業	道路貨物運送業	飲食店	宿泊業	印刷・同関連業	鉱業・採石業・砂利採取業	道路貨物運送業
39	道路貨物運送業	宿泊業	職業紹介・労働者派遣業	対個人サービス業	学術研究機関	鉱業・採石業・砂利採取業	教育・学習支援業	教育・学習支援業	複合サービス業	道路貨物運送業	木製品・家具等製造業	対個人サービス業
40	宿泊業	物品賃貸業	物品賃貸業	道路貨物運送業	その他の対事業所サービス業	廃棄物処理業	紙製品製造業	道路貨物運送業	廃棄物処理業	飲食店	道路貨物運送業	宿泊業
41	その他の運輸業	飲食店	飲食店	学術研究機関	専門・技術サービス業	その他の運輸業	その他の運輸業	医療業・保健衛生	飲食店	宿泊業	農林水産業	その他の運輸業
42	飲食店	道路貨物運送業	道路貨物運送業	飲食店	無店舗小売業	道路貨物運送業	鉱業・採石業・砂利採取業	社会保険・社会福祉・介護事業	農林水産業	職業紹介・労働者派遣業	複合サービス業	紙製品製造業

注 業態別生活習慣全体の表は厚生労働統計協会ホームページを参照。

者の割合」は最も低く、「味付けが薄い、普通の者の割合」「飲酒は週5日以下である者の割合」「ストレスを感じるが解消法を持っている割合」も最も低かった。また、「カルシウムを毎日摂取している者の割合」も4番目に低かつ

た。

### Ⅳ 考 察

協会けんぽは全都道府県に支部があること、また、すべての業態において加入事業所が存在しているという特徴を活かし、全国規模で業態別生活習慣について分析を行った。その結果、生活習慣は業態によって異なる傾向がある可能性が示された。このことにより、画一的な事業や保健指導では効果が期待できないことが推察され、業態ごとの生活習慣、健康状態の特徴を踏まえた戦略的な事業の展開が求められる。

「道路貨物運送業」「その他の運輸業」は、生活習慣全般において好ましくない割合が高い業態だったが、当該業態従事者の健康状態の悪化が多くの人を巻き込む重大事故を引き起こす可能性があることから、健康状態や生活習慣に着目した研究・調査報告が多くみられている<sup>5)-9)</sup>。協会けんぽにおいても現場で保健指導に従事す

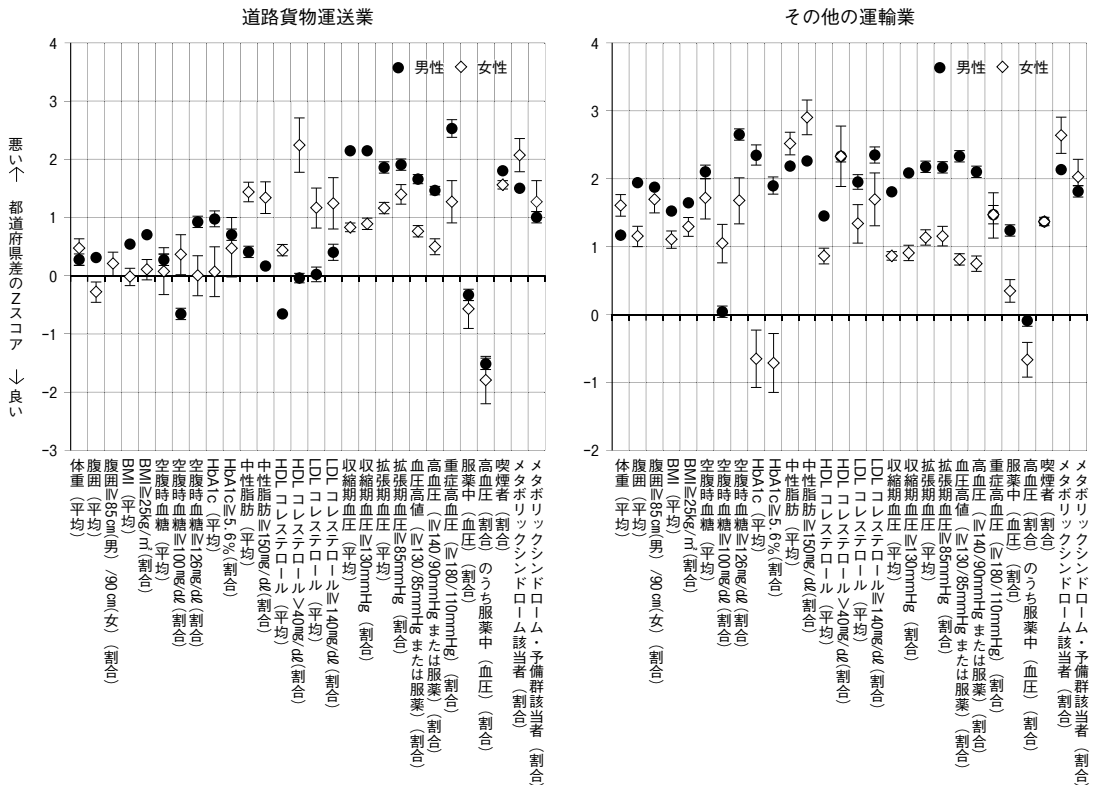
休業	アルコール	タバコ
ストレスを感じない者	飲酒は週5日以下である者(禁酒者、飲まない者含む)	喫煙していない者(禁煙者含む)
学術研究機関	無店舗小売業	公務
公務	情報通信業	学術研究機関
農林水産業	社会保険・社会福祉・介護事業	医療業・保健衛生
廃棄物処理業	医療業・保健衛生	政治・経済・文化団体
職別工事業	専門・技術サービス業	社会保険・社会福祉・介護事業
娯楽業	政治・経済・文化団体	専門・技術サービス業
総合工事業	金融・保険業	情報通信業
道路貨物運送業	不動産業	専門・技術サービス業
修理業	その他の対事業所サービス業	印刷・同関連業
その他のサービス業	電気・ガス・熱供給・水道業	公務

表4 5業態別順位表

物品貸貸業	機械器具製造業	印刷・同関連業	職業紹介・労働者派遣業	宿泊業	情報通信業	社会保険・社会福祉・介護事業	紙製品製造業	医療業・保健衛生	金融・保険業
飲食料小売業	飲食店	木製品・家具等製造業	農林水産業	紙製品製造業	廃棄物処理業	修理業	紙製品製造業	道路貨物運送業	飲食・採石業・砂利採取業
木製品・家具等製造業	飲食店	その他の製造業	宿泊業	設備工事業	修理業	総合工事業	紙製品製造業	廃棄物処理業	飲食・採石業・砂利採取業
その他の製造業	飲食料小売業	その他の運輸業	教育・学習支援業	紙製品製造業	紙製品製造業	政治・経済・文化団体	紙製品製造業	医療業・保健衛生	学術研究機関
その他の製造業	飲食料小売業	その他の製造業	教育・学習支援業	紙製品製造業	紙製品製造業	政治・経済・文化団体	紙製品製造業	医療業・保健衛生	学術研究機関
その他の製造業	飲食料小売業	その他の製造業	教育・学習支援業	紙製品製造業	紙製品製造業	政治・経済・文化団体	紙製品製造業	医療業・保健衛生	学術研究機関

	栄養・食生活							
	朝食を毎日とる者	1日3回、主食・副菜・副菜揃った食事をとる	1日に1回、主食・副菜揃った食事をとらない(運転)	1日3回、主食・副菜揃った食事をとる	1日に1回、主食・副菜揃った食事をとらない(運転)	カルシウムを毎日摂る者	味付けが薄い、普通の者	摂取エネルギー量が適正な者(BMIが25未満)
鉱業・採石業・砂利採取業	30番	25番	8番	6番	1番	39番	42番	25番
総合工事業	13	11	25	19	29	23	19	30
情報通信業	34	27	19	24	36	19	4	24
道路貨物運送業	39	42	42	40	14	42	38	40
その他の運輸業	41	37	38	25	3	41	41	33
	運動				休養		アルコール	タバコ
	20分以上の運動を週1回行う者①	20分以上の運動を週3回以上行う者②	通勤時20分以上(徒歩・自転車)①、対象者を除く	起床時の疲労感を感じない者	ストレスを感じない者	ストレスを感じる者が少ない者	飲酒は週5日以下である者(禁酒者、飲まない者含む)	喫煙していない者(禁煙者含む)
鉱業・採石業・砂利採取業	36番	36番	38番	25番	27番	42番	42番	37番
総合工事業	25	21	35	8	7	26	39	25
情報通信業	6	13	3	33	38	2	7	10
道路貨物運送業	30	39	40	38	8	41	23	42
その他の運輸業	37	29	15	41	15	40	15	40

図1 2012年度特定健診データの業態別特徴の要約(40~64歳)



値は年齢調整値に基づく「都道府県差のZスコア」と標準誤差 Zスコアの解釈 (目安):  
 <-0.5 良い  
 ±0.5 ほぼ平均的  
 +1.0 上位6分の1  
 +2.0 ほとんどトップ  
 +3.0 突出している

注 HDLコレステロール (平均) のみ値が低いほどZスコアは高い。他は値が高いほどZスコアが高い。  
 服薬中 (血圧) (割合) は、高いことが必ずしも悪いとは限らないので解釈には注意。

る保健師・管理栄養士からタクシー運転手や長距離トラック運転手に生活習慣が好ましくない者の多いことが語られており、今回の分析ではそのような現場の知見を裏付ける結果だった。また、協会けんぽ被保険者の特定健康診査結果の業態別分析においても「道路貨物運送業」「その他運輸業」は全業態の中で比較的数値が悪い項目が多く(図1)<sup>1)</sup>、当該業態について、好ましくない生活習慣と健診結果が関連している可能性が示唆された。これらから、道路貨物運送業およびその他の運輸業は、生活習慣病対策を考える上で優先的に取り組むべき業態と思われる。

総合工事業は、「喫煙している者のうち、禁

煙の意志のある者」の割合が高く、禁煙対策を比較的進めやすい業態である可能性がある。また、休養については「起床時に疲労感がない者」「ストレスを感じない者の割合」が高く、休養対策の優先度は低いと考えられる。しかし「飲酒が週5日以下である者の割合」が低く、アルコールに関連する健康問題への対策が必要な業態である可能性が考えられた。

情報通信業は、「味付けが薄い、普通の者の割合」が高く、塩分摂取に関して関心が高いことが考えられるが、「朝食を毎日とる者の割合」が比較的低く、朝食の欠食率が高い業態であると思われる。塩分だけでなく、食習慣や栄養バランス全般についての理解を促し、適切な

食習慣獲得に向けたアプローチが必要な業態である可能性がある。また、休養について「ストレスを感じない者の割合」が低く、ストレスを感じている者が多いと思われるが、一方で「ストレスを感じるが解消法を持っている者」の割合が高く、ストレスに上手く対応していることがうかがえる。ストレス対策は個々のケースに個別に対応する方法が適している業態であることが考えられた。

鉱業・採石業・砂利採取業は、「1日に主食・主菜・副菜の揃った適量の食事をとらない者の割合」は最も低く、適量の食事をとっているとと思われるが、「味付けが薄い、普通の者の割合」が最も低く、「カルシウムを毎日摂取している者」の割合も低いことから、食事内容に対して意識することが少ない業態であることが考えられる。また、アルコール摂取について「飲酒は週5日以下である者の割合」が最も低いことから、アルコールに関連する健康問題も抱えている可能性もある。アルコール摂取時の食事など、アルコールと食習慣を関連させた事業展開が有効である可能性が考えられる。

本研究の結果、腹囲がメタボリックシンドロームの基準以上である者の割合が高い5業態の生活習慣の違いについて述べてきた。同じ健康問題であっても職種別に症状の程度が異なることは報告されているが<sup>1)</sup>、同様に、協会けんぽの保健師・管理栄養士約700人を対象とした調査においても、同じ健康問題であっても業態によって引き起こされる過程や悪化要因・緩和要因が異なっていると保健師・管理栄養士がとらえていることを報告している<sup>13)</sup>。この調査は保健師・管理栄養士の主観をとらえたものであり、現実と一致しているかを検証してはいないが、保健師・管理栄養士の経験知が実際の現象を正確に反映しているとするならば、同じ健康問題であっても、業態の特徴によってアプローチ方法を変えることが効果的な保健事業、保健指導につながると考えられる。

データヘルス計画においても、被用者保険の持つ強みや特性を踏まえた事業運営を図ることが大切であり、効果的な保健事業は生産性の維

持・向上にもつながり得ることから、事業主とメリットを共有して事業を推進することが効果的だとしている<sup>14)</sup>。企業の健康保険組合や国民健康保険等に比べ、複数の健康保険組合で構成される総合健保組合や協会けんぽは保険者と加入者との距離が遠いといわれ、保健事業も事業主を介して実施されることが多いが、事業主や業界団体、商工会・商工会議所等とともに事業展開することができるのは、協会けんぽの大きな強みであると考えられる。

協会けんぽが本分析結果や現場の保健師・管理栄養士の知見から業態による健康問題、生活習慣の特徴を把握し、事業主や業界団体、商工会・商工会議所等からのアイデアや提案を活かした保健事業を共に作り上げることで、幅広い視点での事業展開が可能になると考える。

今回の分析は、特定保健指導の積極的支援対象者であり、かつ保健指導を受けた者に限られるため、被保険者全体の業態別生活習慣の特徴を反映しているとはいえない。また、本分析結果を事業に活用するためには、年齢、性別、地域等さらに詳しい分析の必要がある。詳しい分析には、量的分析だけでなく、現場で保健指導に従事する協会けんぽ所属の保健師・管理栄養士の経験知として語られる内容の質的分析もあわせて行っていきたい。

## 文 献

- 1) 高野賢一郎. 勤労者における職種別の肩こりや腰痛の実態と職種別予防体操の効果. 日本職業・災害医学会会誌, 2014; 62(1): 32-7.
- 2) 金子麗奈, 中崎奈都子, 田川徹平, 他. 若年性胆管癌の疫学的特徴について 職業性胆管癌調査の予備的解析. 日本消化器病学会雑誌, 2014; 111(3): 510-1.
- 3) 牧祥, 榎原洋子, 久永直見. 大学および付属学校の教員と事務職員のVDT作業と眼および筋骨格系自覚症状に関する研究. 労働科学, 2013; 89(3): 102-11.
- 4) 内間康知, 肥後直生子, 荒木由美子. 職務形態の異なる女性の体組成および身体症状の比較検討. 日本職業・災害医学会誌, 2014; 62(2): 96-100.

- 5) 作本貞子. 職業ドライバーの安全と健康 安全を支える健康管理の重要性. 労働の科学, 2012; 67(2): 94-7.
- 6) 井奈波良一, 小野桂子, 鷺野嘉映, 他. 長距離トラック運転手のライフスタイル. 公衆衛生, 1996; 60(11): 824-7.
- 7) 根岸茂登美, 荒木田美香子. タクシードライバーのヘルスプロモーションにおける組織特性評価尺度の開発. 国際医療福祉大学学会誌, 2012; 17(1): 30-42.
- 8) 武田玲子, 塩出亮, 岩男絢香, 他. タクシー乗務員の健康調査とライフスタイル. 日本衛生学雑誌, 2010; 65(2): 374.
- 9) 岡田守仁. 健康管理と循環器疾患 JR西日本(大阪管内)の運転士の循環器管理について. 交通医学, 1999; 53(5-6): 147-53.
- 10) 裴英洙, 入江武志, 金井尚子. IT産業従事者における生活習慣とBMI・生化学検査の関連性について. 総合健診, 2010; 37(1): 148.
- 11) 六路恵子, 山崎衣津子, 横山徹爾. 全国健康保険協会の特定健診結果に基づくリスク因子の業態間比較~2012年度健診受診者520万人のデータより~. 第25回日本疫学会学術総会, 2015.
- 12) 日本年金機構. 事業所業態分類票 (<http://www.nenkin.go.jp/service/kounen/kenpo-todoke/jigyosho/20141205.html>) 2016.7.15.
- 13) 船川由香, 山崎衣津子, 六路恵子, 他. 業種・業態から見た身体的・精神的健康に影響を及ぼす要因: 協会けんぽ事業所を対象に. 第74回日本公衆衛生学会総会, 2015.
- 14) 厚生労働省保険局, 健康保険組合連合会. データヘルス計画作成の手引き (1.0版). 2014.